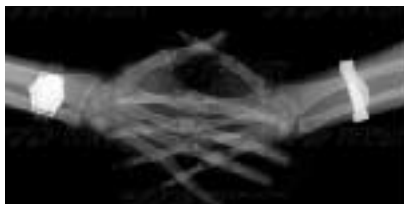


CTを使った 肺がん検診のはなし

- 6 -

X線は物を透過する性質をもっています。X線診断はこの性質(透過性)を利用して使っています。

この透過性は、X線そのものの質によっても違いますが、おもにX線が透過する物の性状によって決まります。X線は、物を透過するときに吸収されたり散乱されたりして、物を通り抜けて反対側に出てきたときには、弱くなっています。これを透過X線といいます。透過X線をフィルムにあてて感光させたのがX線写真です。



フォトサーチ「レントゲンに写る絵」より

写真に使うフィルムは、基本的に普通のネガ・フィルムと同じです。光が当たったところは黒く、あまり当たらなかったところは白くなります。透過X線が多いほど黒く、少ないほど白いです。ですから、私たちはX線写真を使って、透過X線量の差を、白と黒のコントラストの差として読みとることができるのです。

物を透過するときにX線を減弱させるのは、吸収や散乱や干渉ですが、吸収がもっとも大きく作用します。物による吸収の程度を吸収率といいます。ですから、X線写真とは、物の吸収率の差を白と黒のコントラストの差に置き換えたものだといえます。(以下、次号)



「廃棄物対策豊島住民会議資料館」
豊島の住民が一丸となって産廃と30年に亘って
闘ってきた記録が展示されている。

「豊島」から学ぶ

～子どもたちの健康な未来のために～

松井和子

瀬戸内海に浮かぶ、その名の通り豊かな水と山と海に支えられた島・豊島。産廃不法投棄の象徴のように全国に知れ渡った豊島を、先日訪れた。

「"岐阜"は"豊島"とは違う」と言われることを私は知りたかった。「人の好い何にも言わぬやさしいとこへゴミは来るんです。でもゴミは私んたあをおしゃべりにさせたんです」。歯切れよくユーモアで年を感じさせないイチゴ農家の小島さんは、ほがらかに笑った。豊島住民会議の軸であり島出身の県議でもある石井亨さんを支えて来た一人であろう、気骨が感じられた。



小島さんのいちごハウスで説明を聞く
(参加者たちはイチゴに夢中!)

豊島のゴミの大半は自動車や家電のシュレッダーダスト。岐阜と違ふとよく言われる根拠にされている。しかし岐阜の、とくに逮捕された三重県の処分業者ニッカンが持ち込んだ産廃は細かく裁断した状態で持ちこまれている。第一回のボーリング調査の廃棄物層 (GL-1.30 ~ 5.10) ゴミ組成分析結果を見ると、土砂・雑物(5mm以下)47.0%、陶器・石・コンクリートガラ33.90%、木・竹・わらが7.7%だ。また水分15.5%、灰分66.6%、可燃分17.9%となっている。雑物は何だったのか、目視で分かるだろうか。

豊島で処分中のゴミは有害な重金属類と野焼きで出たダイオキシン類などで、今もひとつ間違えば大きな被害をもたらしかねない状況だ。

闘いは1975年に始まった。19の排出業者が3億7千万円の解決金を払うことになって公害調停が成立したのは、それから22年目の1997年12月だった。

"黙って立つ"と、住民たちが作ったパンフレットにある。1993年12月20日からの半年もの間、香川県庁前で豊島住民が3~5名、「元の島に返せ」とゼッケンをつけて毎日立ったという。島から県庁所在地の高松まで出ることを考えただけでも、島民たちの想い、その意気込みが伝わってくる。30年になる今も対策会議が毎週開かれていると聞いて、頭が下がった。

産廃処理には計画上でもまだ10年は掛かるという。県財政がそれまで持ちこたえるのかと、石井さんは心配していた。

石井さんは次のように語った。

「豊島は、共同体が闘った。何か起きたときに、話し合っ解決できる関係ができた。それは物質では補えない強さであり豊かさだ」と。

石井さんのその言葉は、「豊島は違う」への回答だと思った。住民自治なのだ。岐阜の不法投棄事件の解決にも、一番問われていることではないかと思った。

豊島では、土と混ざった廃棄物の山を危険物の検査をしながら溶融助剤(生石灰など)と混ぜ合わせ特殊前処理施設へ保管、水洗、分別などの前処理を済ませてコンテナトラックに積み込み、輸送船で直島の施設に運ぶ。一方汚水が海に流れ出ないよう鉄鋼矢板で造った遮断壁を打ち込み、溜まった地下水・浸出水はポンプでくみ上げ、施設で浄化している。直島も見学した。ここの溶融炉処理では今までに水素爆発事故が二回あり、下請け職員の汚染物質曝露による悲惨な事故も起きている。豊島でのダイオキシンの除去の困難さと合わせて、近代的なきれいな施設のたゞすまいだけからは判らないことの多さに驚いた。リサイクル商品は、莫大なお金を使い、秘めたる危険性を携えて、生まれてくるのだと思った。

経済効率を追い求めてきた社会が作り出した大量のゴミ。金儲けの対象になり、腐敗の温床になり、自然を破壊し人々の健康を害し、生態系そのものを壊してきた。子どもたちの未来を私たちはどうしようとしているのか?

私たちが問われている。